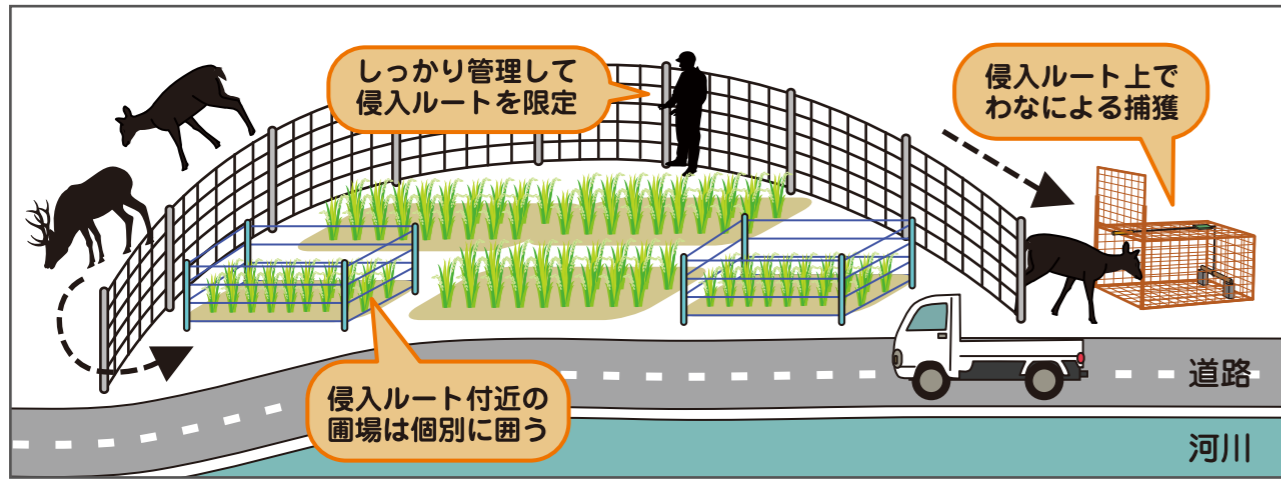


3. 道路や河川からの侵入に対して ルートを限定して「捕獲」「個別柵」

道路や河川のような封鎖できない場所からの侵入を防止する技術は、まだ確立されていません。しかし、柵をしっかり管理すれば、シカやイノシシの侵入ルートを限定できます。絞られたルートに捕獲檻を設置したり、付近の田畑を個別に囲うなど、対策を組み合わせることで対処しましょう。

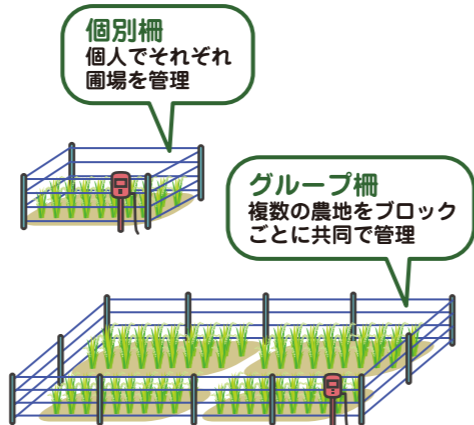


「集落防護柵」が難しい場合は… 農地の周囲に設置する「個別柵」や「グループ柵」で対応！

集落の条件によっては「個別柵」や「グループ柵」を設置した方がよい場合があります。設置前に十分検討しましょう。

	守れる範囲	労力・経費	集落条件の目安
集落防護柵	◎	△ (条件により異なる)	<ul style="list-style-type: none"> 補助金が活用できる 受益者負担額が許容できる範囲 集落全体のまとまりがよい 設置後の維持管理に対して集落全体の合意がとれる…など
個別柵	△	○	<ul style="list-style-type: none"> 地形が複雑 非農家率が高いなど受益者負担が大きい 道路や河川など封鎖できない所が多い 設置後の維持管理に不安がある 積雪が多く冬期は柵の撤去が必要…など
グループ柵	○	◎	

グループで設置すると、柵の総延長を短かくできたり、電牧器を共有できるので、経費が安くなります。



ご相談ください

柵を設置しても効果があらわれない方

これから柵の設置を考えている方

柵の点検方法や他の集落の優良事例などを紹介します



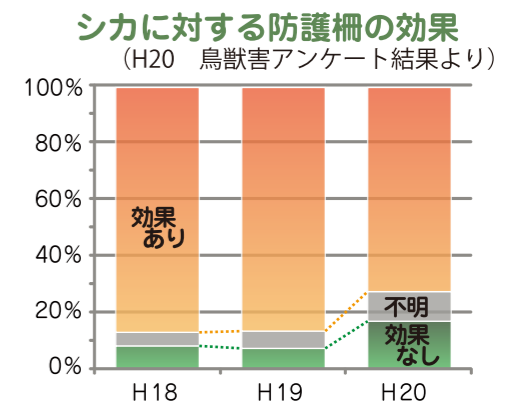
「集落防護柵」を用いたシカ・イノシシの被害対策



防護柵は大変効果のある被害対策の一つですが、設置方法や点検が適切でないと、効果がなくなります。とくに「集落防護柵」は、広範囲を守れるという良い点がありますが、設置後の維持管理に多くの労力が必要です。「集落防護柵」の特徴や課題をよく理解し、効果的な活用方法を検討しましょう。

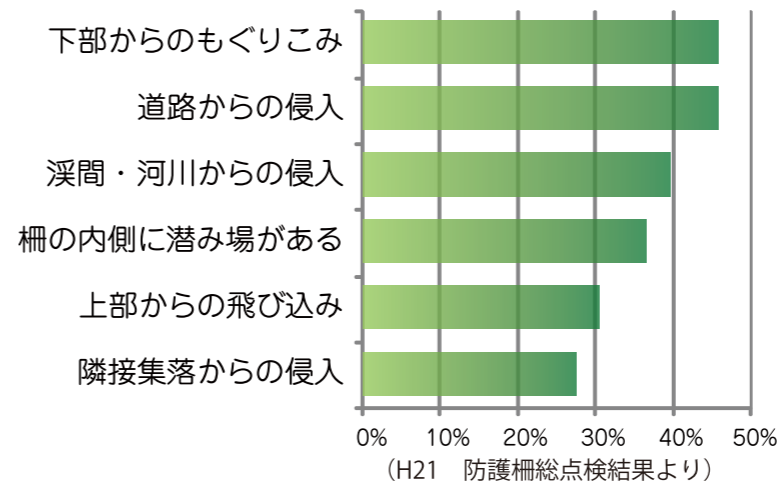
集落防護柵の効果

防護柵を設置している集落にアンケート調査を行った結果、多くの集落で効果があることがわかりました。ただし、効果がないという回答が年々増える傾向にあります。



効果が持続しない原因

「効果がない」という回答のあった集落で、柵の調査を行ったところ次のような原因が明らかになりました。



これらの原因を少なくするため、このパンフレットでは、次の3点について解説します。

1. 「設置前」の注意：ルート設計や施工方法 ▶ 2ページ
2. 「設置後」の注意：定期点検・補修が不可欠 ▶ 3ページ
3. 道路や河川からの侵入に対して ▶ 4ページ